

事務 事業名	コード1	24100	家畜防疫対策事業	事業 種別	☐ 国土強靱化地域計画	課	農水産課		
	コード2				☐ 新市建設計画	所属班	畜産班		
施策 体系	施策	1	農水産業の振興	事業 種別	☐ 総合戦略	電話番号	68-1175	内線	259
	施策の展開	1	農畜産物の生産振興		☐ 復興計画	予算 科目	会計		款 項 目
					☐ 定住自立圏構想		一般会計		6 1 4
					☐ 行政改革アクションプラン	根拠 法令	旭市補助金等交付規則 旭市農水産業振興事業補助金交付要領		
					☐ 主要事業				
					☐ 簡易評価				

1 現状把握(Do)

(1)事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☐ 平成 年度～ ☒ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで ※全体像を記述→	近年、畜産経営では、飼養規模の拡大が進行する中、さまざまな家畜伝染病の発生が危惧され、衛生管理の強化が重要となっている。 このような畜産環境の中、家畜伝染病の予防接種や検査を実施した事業者に対し補助金を交付し、家畜伝染病の発生及び蔓延を未然に防止し、経営の安定を図る。 【業務の流れ】 「牛の結核病・ブルセラ病・ヨーネ病の検査」、「牛のアカバネ病ワクチン接種」、「豚オーエスキ病ワクチン接種」、「鶏ニューカッスル病ワクチン接種」を実施した農家に対して補助金を交付。また、予防接種の受付、ワクチンの注文や支払い等について、農家と畜産協会の仲介をしており、予防接種に立ち会うこともある。

(2)トータルコスト

① 費目の内訳(26年度の実績)	単位:千円
1.牛の結核・ブルセラ病・ヨーネ病検査	1
2.牛のアカバネ病予防接種	192
3.豚のオーエスキ病予防接種	24,427
4.鶏伝染病予防接種	4,064
② 特定財源の内訳(26年度の実績)	単位:千円
1.国庫支出金	
2.都道府県支出金	
3.地方債	
4.その他	
前年度比増減理由:	
③ 延べ業務時間の内訳(26年度の実績)	単位:時間
4月:88時間 、 5月:92時間 、 6月:88時間 7月:10時間 、 8月:10時間 、 9月:10時間 10月:10時間 、 11月:10時間 、 12月:10時間	

	単位	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (計画)
事業 費目 内訳	1.牛の結核・ブルセラ病・ヨーネ病検査	千円 1,010	3	1	1,010
	2.牛のアカバネ病予防接種	千円 197	188	192	215
	3.豚のオーエスキ病予防接種	千円 23,815	23,915	24,427	25,500
	4.鶏伝染病予防接種	千円 2,452	3,159	4,064	2,000
	事業費計 (A)	千円 27,474	27,265	28,684	28,725
事業 費源	1.国庫支出金	千円			
	2.都道府県支出金	千円			
	3.地方債	千円			
	4.その他	千円			
	5.一般財源	千円 27,474	27,265	28,684	28,725
人件 費	正規職員従事人数	人 0.22	0.22	0.22	0.22
	延べ業務時間	時間 440	440	440	440
	人件費計 (B)	千円 1,672	1,672	1,672	1,672
トータルコスト(A)+(B)		千円 29,146	28,937	30,356	30,397

(3)事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (計画)
	26年度実績(26年度に行った主な活動) 家畜伝染病の発生及び蔓延を未然に防止するためのワクチン接種及び検査 27年度計画(27年度に計画している主な活動) 家畜伝染病の発生及び蔓延を未然に防止するためのワクチン接種及び検査	ア 牛の結核・ブルセラ病・ヨーネ病検査 イ 牛のアカバネ病予防接種 ウ 豚のオーエスキ病予防接種 エ 鶏伝染病予防接種	頭 頭 頭 羽	1,542 1,421 832,680 4,085,800	5 1,236 882,470 4,102,200	2 1,235 814,220 4,465,780	1,542 1,400 850,000 2,000,000
目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか) 畜産農家(牛・豚・鶏・うずら)	⑥ 対象指標名	単位	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (計画)
	③ 意図(対象がどのような状態になるのか) 家畜の疾病発病を未然に防ぎ畜産経営者への被害を回避する。 特に、オーエスキ病については、地域清浄化を達成する。(ステータスⅣにする。)	ア 牛の生産者 イ 豚の生産者 ウ 鶏・うずらの生産者	戸 戸 戸	59 64 21	58 63 21	57 62 21	53 61 21
上位 目的	④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか 農業者、水産業者が経営所得が安定する	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (計画)
		ア 関係する伝染病が蔓延した畜舎数 () イ オーエスキ地域清浄化レベル (ステータスⅡは、ワクチン接種を推進し、清浄性が確認できれば順次接種を中止していく段階)	戸 ステータスⅡ	0 ステータスⅡ	0 ステータスⅡ	0 ステータスⅡ	0 ステータスⅡ
上位 目的		⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (計画)
		ア 市内における農業所得者一人当たりの平均所得 ()	千円	3,555	3,761	3,602	3,761

(4)事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か?どんな経緯で始まったか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか?開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか?	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
家畜伝染病の発生及び蔓延を防止して畜産経営の安定化を図るべく始まった。	畜産農家1戸当たりの飼養頭数は増加しており、伝染病の蔓延は脅威となっている。 特に、豚オーエスキ病については、旭市及び近隣市町は、依然として清浄化が達成されていないので、ワクチンの接種は必要不可欠である。(全国12の県で清浄化されてなく、うち8県が関東。千葉県内では、ほとんどの市町村で清浄化が確認されているが、旭市及び近隣市町は、清浄化がなされていない。)	畜産農家から、「ワクチン接種や検査に補助がでることで、負担が軽減できている。今後も予防接種や検査を実施するにあたり、事業を続けていってほしい」という声がある。

事務事業名	家畜防疫対策事業	課名	農水産課	班名	畜産班
-------	----------	----	------	----	-----

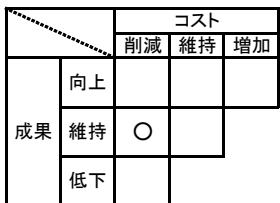
2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 施策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】	この事務事業の目的は市の施策体系に結びつくか？意図することが上位目的に結びついているか？ 家畜伝染病の予防事業に助成を行うことで、より多くの畜産経営者が予防事業を実施するようになるので、家畜伝染病の疾病発病を未然に防ぐという意図と結びつく。	
	② 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】		対象は、全ての畜産農家であり、公平性の観点から見直しの余地はない。また、意図についても、家畜伝染病を未然に防いで被害を回避するというものなので適切と思われる。
	③ 行政関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】		なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？ 畜産農家への助成という性質上、市が実施することが妥当であると思われる。
有効性 評価	④ 成果の現状水準	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】	あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？ 現状として、予防事業の実施により家畜伝染病の蔓延を防止できているので、成果は水準に達している。ただ、オーエスキー病に関して、旭市及び近隣市町では、依然として清浄化が達成されていないので、何件でもないがワクチンを基準頭数接種できていない農家には指導を行っていく必要がある。	
	⑤ 成果の向上余地	☐ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☒ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】	次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するかどうか？成果の向上余地はどの程度あるか？ 年間を通しての予防事業に助成を行っているの、今以上活動を増やすことはできない。ただ、オーエスキー病に関しては、清浄化達成に向けて、何件でもないがワクチン接種の基準をクリアしていない農家に呼びかけを行っていく必要はある。	
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (1) 事務事業名：() (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☐ 連携ができる ⇒【理由】 ☐ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1) 具体的にはどのような事務事業か？ (2) 類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？ 類似事業はないので、目的を達成するためには、本事業を行う必要がある。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(表面トータルコストの事業費部分)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】	事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど) 1頭当たりの助成額について、削減の余地も考えられる。	
	⑧ 人件費の削減余地(表面トータルコストの人件費部分)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】	やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？ 市の助成については、多額の資金を扱うので、臨時職員ではなく現状通り正規職員が実施することが望ましい。オーエスキー病については、事業の中で一番事務量が多いので清浄化を達成できればワクチンの接種が中止となり、大幅な人件費の削減につながる。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】	事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 全ての畜産農家を対象にしているの、公平・公正である。	

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	家畜伝染病は、発生すれば畜産経営に大きな影響を及ぼす。市農業産出額の50%以上を占める畜産業は、市の基幹作物であり、畜産の経営を安定させることで市全体の農業振興につながる。	

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1) 今後の事業の方向性(複数選択可) ※2～3年後を目処にした方向性		(3) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) 
☐ 目的再設定 ☐ 行政関与の見直し ☒ 事業のやり方改善による成果向上 ☐ 事業統廃合・連携(関連事業：) ☐ 事業のやり方改善による事業費削減 ☒ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減 ☐ 受益機会の適正化 ☒ 費用負担の適正化 ☐ 廃止・休止		
(2) 改革改善案について ※いつまでに、なにを、どうするのか？		
いつまでに	なにを、どうするのか？	
豚のオーエスキー病について、旭市の清浄化レベルがステータスⅢになったら 補助金額の見直しを行う。		
(4) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策		
畜産農家の協力		